



~次世代米国代表企業の 2014年7-9月期決算~

- 皆様におかれましては平素より「次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)」をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。
- さて、米国主要企業の2014年7-9月期決算が出揃ってまいりましたので、ファンドに組み入れている次世代米国代表企業の決算状況についてお伝えしてまいります。

■当ファンドの構成銘柄について

11月21日現在の当ファンドの構成銘柄(次世代米国代表企業)30銘柄と米国の代表的な株価指数であるダウ工業株30種30銘柄との関係を整理すると、以下の3つに分類できます。

A 独自銘柄

(当ファンド保有 & ダウ工業株30種非採用銘柄)

1	グーグル
2	アマゾン・ドット・コム
3	ハリバートン
4	CVSヘルス
5	アップル
6	スターバックス
7	ダナハー
8	ギリアド・サイエンシズ
9	クアルコム
10	メットライフ
11	フェイスブック
12	セルジーン
13	バイオジェン・アイデック

B 共通銘柄

(当ファンド保有 & ダウ工業株30種採用銘柄)

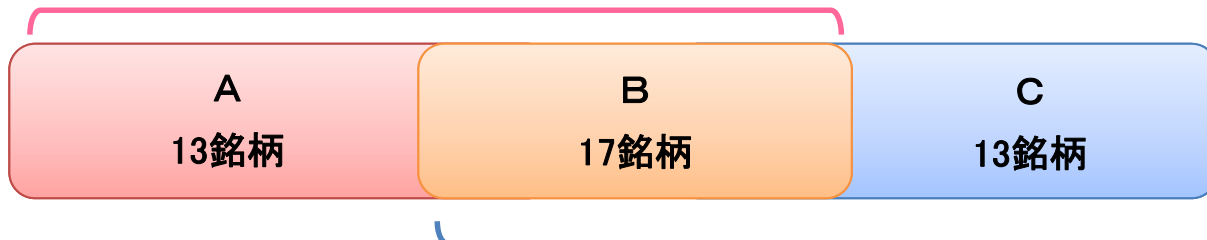
1	ボーイング	2	AT&T
3	ゼネラル・エレクトリック	4	シェブロン
5	3M	6	ウォルト・ディズニー
7	ナイキ	8	Visa
9	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー		
10	ベライゾン・コミュニケーションズ		
11	アメリカン・エキスプレス		
12	イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール		
13	ザ コカ・コーラカンパニー		
14	ゴールドマン・サックス・グループ		
15	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー		
16	ユナイテッド・テクノロジーズ		
17	ユナイテッドヘルス・グループ		

C 非保有銘柄

(当ファンド非保有 & ダウ工業株30種採用銘柄)

1	キャタピラー
2	シスコシステムズ
3	エクソンモービル
4	ホーム・デポ
5	インテル
6	マクドナルド
7	メルク
8	マイクロソフト
9	トラベラーズ・カンパニーズ
10	ウォルマート・ストアーズ
11	IBM
12	ファイザー
13	ジョンソン・エンド・ジョンソン

当ファンド構成銘柄(A+B)



上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記は、過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



三菱UFJ投信

次世代米国代表企業の決算状況

■ **米国企業の決算は引き続き好調。業績相場入りがいよいよ鮮明に。**

2014年11月13日現在、S&P500指数採用企業の2014年7-9月決算は、前年同期比で7.6%の増益となっています。米国経済は、各種経済指標にみられるように着実に回復しているものと判断されるなか、これを裏付けるように企業業績の足取りもいよいよしっかりとしたものとなってきました。今回の四半期決算では、米国国内の事業環境の好調さに言及する企業が目立ちました。事前に懸念された海外景気の不調が米国企業の業績に与える影響についても、極めて限定的だとの認識が高まることとなり、10月中旬来の株式市況上昇の要因となりました。

■ **将来の成長分野への積極的な投資を行う企業が目立つ。**

今回の決算発表においては、フェイスブック、アマゾン・ドット・コムなどのインターネット関連企業の株価が、決算発表後に一時的に下落する局面もありました。会社側の将来の売上増加を睨んだ投資拡大に対し、目先の利益への圧迫要因と見る向きがあったからです。しかしながら、投資拡大は、将来の成長機会に対し適切な布石を打っているものと判断され、むしろ好材料と捉えられるべきものと考えます。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■ 本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

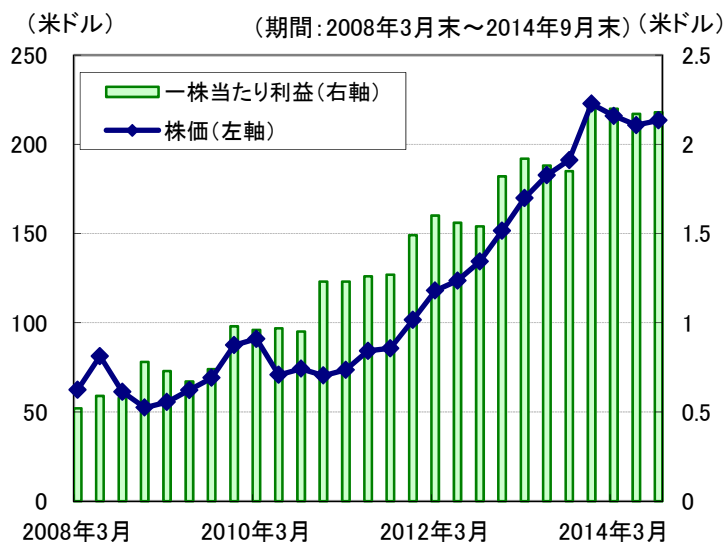
※以下は当ファンド構成銘柄の中から、過去1ヵ月の株価騰落率における上位2銘柄についてご紹介するものです。

次世代米国代表企業① Visa 業種:情報技術

- 売上高 : 32.3億米ドル
(事前予想 31.9億米ドル)
- 一株当たり利益 : 2.18米ドル
(事前予想 2.10米ドル)
- ① 売上、利益とも事前予想を上回った。
- ② 世界的に現金から電子決済へのシフトが進む中、決済ネットワークを利用した支出増加が同社への追い風となっている。
- ③ 地政学的緊張の高まりは、マイナス材料であるものの、影響は限定的。

・売上高、一株当たり利益は2014年7-9月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。

株価と一株当たり利益の推移(四半期)



・上記はVisa上場以降の決算期から表示しています。

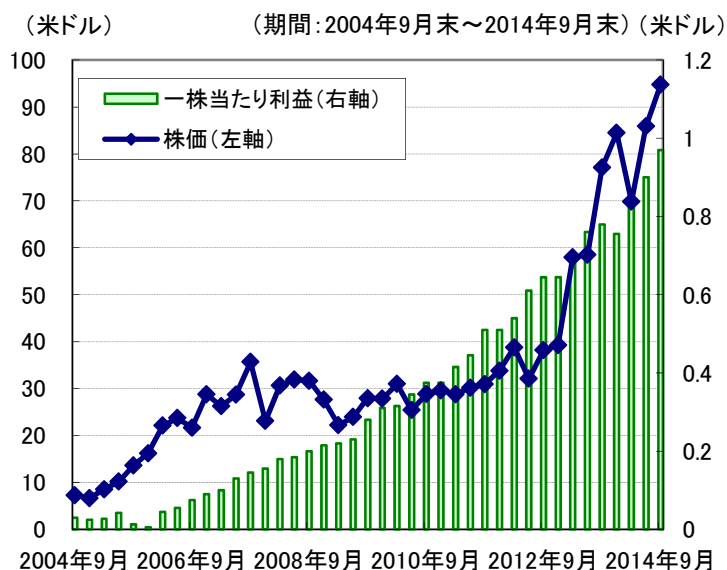
(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

次世代米国代表企業② セルジーン 業種:ヘルスケア

- 売上高 : 19.8億米ドル
(事前予想 19.6億米ドル)
- 一株当たり利益 : 0.97米ドル
(事前予想 0.95米ドル)
- ① 売上、利益ともに事前予想を上回った。
- ② 主力薬である「レブリミッド」は順調に売上を伸ばしている。新薬の「アブラクサイン」の売上は若干の予想未達となったものの、「ポマリスト」は順調な立ち上がりとなった。
- ③ 臨床試験段階にある新薬開発の進捗も確認された。

・売上高、一株当たり利益は2014年7-9月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。

株価と一株当たり利益の推移(四半期)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通しなし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

次世代米国代表企業一覧① (2014年7-9月期決算発表企業)

* 売上高は億米ドル単位、EPS(一株当たり利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

	企業	収益	内容
一般消費財・サービス	アマゾン・ドット・コム	売上: 205.8 (予想: 208.4) EPS: -0.42 (予想: -0.03)	売上は事前予想を下回り、利益もまた事前予想を超える大幅な赤字。引き続きオンラインショッピングは北米を中心に高い成長を遂げている一方で、当社初となるスマートフォン発売が不調だったことから損失を計上、加えて生鮮食品配送サービスなどの新規事業への投資負担増が足かせとなり赤字幅は拡大。投資とそれに見合ったリターンのバランスに注視する戦略変更に期待したい。
	ウォルト・ディズニー	売上: 123.9 (予想: 123.7) EPS: 0.89 (予想: 0.89)	売上・利益ともにほぼ事前予想と一致。映画やテーマパーク事業が好調。特に映画事業では8月公開の「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー」が成功し、興行収入が米国映画界で2014年最高となった。また、「アナと雪の女王(Frozen)」関連のグッズやライセンス収入も売上げを押し上げた。長期的にも映画「スターウォーズ」の公開や「上海ディズニーリゾート」開園に期待。
	スターバックス	売上: 41.8 (予想: 42.4) EPS: 0.74 (予想: 0.74)	売上は事前予想を下回り、利益はほぼ一致。会社側は通期の見通しを引き下げた。米国での朝食サービス競争激化から苦戦。マクドナルドなどの競合企業が朝食メニューを充実させたことなどから米国の既存店売上が苦戦した。しかしながら、中国を中心としたグローバルでの新規出店の加速やコーヒー以外の売上増加、プリペイドカード導入による顧客満足上昇などから高い成長力が期待できる。
エネルギー	ハリバートン	売上: 87.0 (予想: 85.3) EPS: 1.19 (予想: 1.10)	地域別では、北米地域が引き続きシェールガス向けを中心に好調であり、地域別の事前収益予想を上回った。最近の原油価格下落にもかかわらず、原油掘削に落ち込みは見られないとの見方を示した。2014年10-12月期の北米地域の利益率は、現行の水準ないしはやや上昇の方向。制裁絡みの影響からロシア地域には慎重な見直し。
	シェvron	売上: 497.1 (予想: 529.7) EPS: 2.95 (予想: 2.52)	原油相場の軟調を背景に製油事業の好調が利益を押し上げた。原油・天然ガスの生産量は、事前予想を上回った。
金融	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	売上: 260.7 (予想: 244.3) EPS: 1.62 (予想: 1.39)	事前予想を上回る決算内容となった。消費者・地域銀行部門ではクレジットコストの増加、法人・投資銀行部門では債券引受業務の落ち込みがそれぞれマイナスとなったものの、トレーディング収入が増加となった。
	アメリカン・エクスプレス	売上: 87.5 (予想: 83.5) EPS: 1.40 (予想: 1.37)	事前予想を上回る決算となった。クレジットカードの利用金額が増加するなか、加盟店手数料や純金利収入などが収益を押し上げる要因となったほか、費用削減努力も奏功した。地域別のクレジットカード利用金額は米国やアジアなどで好調な伸びを見せた。
	ゴールドマン・サックス・グループ	売上: 96.4 (予想: 78.3) EPS: 4.57 (予想: 3.21)	事前予想を上回る決算内容となった。為替市場が大きく変動するなかトレーディング収益が大幅な回復を見せたことに加え、資産運用部門では顧客資産の増加、投資銀行部門では助言・引受業務(中国の電子商取引アリババの新規公開など)が好調に推移したことなどが増益の背景。
	メットライフ	売上: 188.5 (予想: 175.3) EPS: 1.60 (予想: 1.38)	事前予想を上回る決算となった。保険料収入が順調に伸びたほか、運用収益も改善した。地域別にみると米州では買収したチリの「プロヴィダ」が増益に貢献したほか、アジアは中国や豪州での保険販売が好調であった。
資本財・サービス	ダナハー	売上: 48.7 (予想: 49.0) EPS: 0.90 (予想: 0.89)	売上は事前予想を下回ったが、利益はやや上回った。引き続き、収益性の高い「医療機器部門」の診断機器が好調であったほか、「テスト・測定事業」も事前予想より上振れた。次の四半期決算は為替によるマイナス影響が大きいと会社側はコメントしたが、コア事業の「医療機器部門」の安定した成長や買収企業とのシナジー効果から中長期的な成長は維持されている。
	ゼネラル・エレクトリック	売上: 359.2 (予想: 369.2) EPS: 0.38 (予想: 0.37)	売上は事前予想を下回ったものの、利益はやや上回った。年間のコスト削減計画が事前予想を上回る勢いで実行されており利益は堅調となった。四半期の受注残高も高水準。特に新興国向けが高い伸びとなった。2015年以降も消費者金融部門の分離上場や、仏アルストム社のエネルギー事業買収から今後の業績拡大が期待できる。
	ユナイテッド・テクノロジーズ	売上: 161.7 (予想: 161.7) EPS: 1.82 (予想: 1.81)	売上は事前予想とほぼ変わらなかったが、利益はやや上回った。前四半期に引き続き、ジェットエンジン部門の民間向け航空機用スペアパーツの出荷が好調だったことや新興国を中心とした旺盛な需要からオーティス(エレベーター部門)が大きく寄与。潤沢なキャッシュ保有から企業買収による更なる成長に期待。
	ボーイング	売上: 237.8 (予想: 230.2) EPS: 2.14 (予想: 1.97)	売上、利益とも事前予想を上回り、通期見直しも売上、利益とも上方修正された。生産能力拡大から主力の「B737」、新型機「B787」を中心に民間航空会社への引渡し機数は増加。ただし、「787」の生産関連コストが予想以上に増加したことなどから営業利益率は低下した。今後、生産性向上による利益率の改善が見込まれ、新興国の航空会社を中心に引渡し機数の増加が見込まれる。
	3M	売上: 81.4 (予想: 82.5) EPS: 1.98 (予想: 1.96)	売上は事前予想を下回ったものの、利益は上振れた。全ての事業部門が前年比増収となり、特にヘルスケア事業が堅調となった。しかしながら、事前予想の期待値が高かったため事前予想を下回ったものと受けとめられた。会社側は堅調な為替の影響(ドル高)を考慮し、やや慎重なコメントを発表。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

・上記は2014年11月21日現在でファンドに組み入れられている次世代米国代表企業について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通し・分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

次世代米国代表企業一覧② (2014年7-9月期決算発表企業)

* 売上高は億米ドル単位、EPS(一株当たり利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

	企業	収益	内容
情報技術	アップル	売上: 421.2 (予想: 399.1) EPS: 1.42 (予想: 1.30)	事前予想を上回る好調な決算内容。タブレット型PCの「iPad」の販売台数は、やや予想を下回ったが、「iPhone」の販売台数が上振れとなった。9月に発売された新製品「iPhone6」も好調な立ち上がりを見せており、経営陣は今後についても強気の見通しを示した。粗利率率は38%で、前年同期の37%から改善した。
	フェイスブック	売上: 32.0 (予想: 31.2) EPS: 0.43 (予想: 0.40)	売上、利益ともに市場の事前予想を上回る内容の決算となった。モバイル広告収入が全体の広告収入に占める割合は66%に拡大した。モバイル広告収入の占める割合は、2014年1-3月期四半期の59%、同4-6月期四半期の62%から着実に拡大している。新規分野への投資拡大の必要から、2015年度の営業費用が50~70%、対前年比で増加するとの見通しを示した。
	クアルコム	売上: 66.9 (予想: 70.2) EPS: 1.26 (予想: 1.32)	売上、利益ともに事前予想を下回る不振な決算内容となった。同社の新製品への強い需要が売上高の伸びを押し上げている一方で、一部の中国スマートフォン・メーカーによるライセンス使用料の支払い拒否により、利益が抑制されている。中国政府は同社の商慣行を調査しており、スマートフォン・メーカーがライセンス料に関する交渉を引き延ばす理由となっている。
	Visa	売上: 32.3 (予想: 31.9) EPS: 2.18 (予想: 2.10)	別掲
	グーグル	売上: 165.2 (予想: 131.9) EPS: 6.35 (予想: 6.53)	売上は事前予想を大きく上回ったものの、新規分野への投資拡大から、利益は事前予想に未達となった。広告一件当たりの平均単価は対前年比で2%低下したものの、広告の総数は17%増加した。顧客が、引き続きデスクトップやタブレットからスマートフォンに着実に移行しているという流れがあり、同社のモバイル化戦略が順調に進捗していることを示している。
生活必需品	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	売上: 207.9 (予想: 207.6) EPS: 1.07 (予想: 1.07)	売上、利益とも事前予想とほぼ一致。次の決算もリストラ効果が奏功するものの、為替の影響が大きくマイナスに影響すると会社側はコメント。ただし、中長期的にブランド整理により利益率の高いブランドへ経営資源を集中させるなど、市場シェア拡大主義から利益率向上に戦略を転換。引き続き、収益性の向上が見込まれる。
	CVSヘルス	売上: 350.2 (予想: 347.4) EPS: 1.15 (予想: 1.13)	売上、利益とも事前予想を上回る決算内容。企業イメージ向上などのため「たばこ販売」を中止し、ヘルスケア事業に集中させる戦略変更を行った。ジェネリック薬品販売を中心とした薬剤管理給付事業の売上が好調となり、タバコ販売の売上減少を上回る決算内容となった。引き続き企業買収によるシナジー効果や薬品価格上昇の追い風により業績は堅調に推移するものと予想。
	ザ コカ・コーラカンパニー	売上: 119.8 (予想: 121.2) EPS: 0.53 (予想: 0.53)	売上は事前予想を下回ったものの利益はほぼ一致する決算内容。炭酸飲料を中心に世界的な販売低迷に陥っている。健康志向の高まりから北米での売上げが前年比でマイナス成長となり、為替の影響も売上不調の一因となった。また、炭酸飲料を補うため清涼飲料水への販売促進を進めているが、効果は見られず。こうした事業環境の中、向こう5年のコスト削減計画(約3,400億円)を発表。
素材	デュポン	売上: 75.1 (予想: 79.5) EPS: 0.54 (予想: 0.53)	事前予想で前年比売上増加を見込んでいたが、実績は減収。一方、利益は事前予想をやや上回った。農業関連部門での落ち込みが大きく、遺伝子組み換え種子や農薬の価格下落が大きく影響し、また、化学部門の太陽光パネル関連素材での競争激化も影響した。ただし、化学事業部門の売却による収益性の改善や農業関連事業での高い競争力から中長期的な成長性は変わらないと考える。
電気通信・サービス	ベライゾン・コミュニケーションズ	売上: 315.9 (予想: 315.9) EPS: 0.89 (予想: 0.90)	売上は事前予想とほぼ一致となったものの、利益は予想を下回る決算となった。携帯通信事業は競争環境が激化するなかでも利用者数は順調に拡大。固定通信事業では光ファイバー回線をベースとするインターネットやビデオなどのサービス「FiOS」が健闘したものの、法人向けで売上が低迷した。
	AT&T	売上: 329.6 (予想: 332.1) EPS: 0.63 (予想: 0.64)	事前予想を下回る決算となった。携帯通信事業においては新規加入者が増えるとともにポストペイドの解約率が低下するなどポジティブな材料が見られた一方、固定通信事業においてテレビのコンテンツ費用が嵩んだことが利益の下押し要因となった。
ヘルスケア	ユナイテッドヘルス・グループ	売上: 327.6 (予想: 327.5) EPS: 1.63 (予想: 1.53)	政府の医療保険制度見直し(オバマケア)の恩恵を、引き続き受けている。低所得者層の保険加入の恩恵を受ける一方で、コスト増は想定範囲内に抑えられている。
	バイオジェン・アイデック	売上: 25.1 (予想: 24.9) EPS: 3.80 (予想: 3.49)	売上、利益ともに事前予想を上回る好調な決算内容。既存薬の「タイサブリン」の売上が事前予想を上回った。大型新薬として期待される「テクフィデラ」の売上が、市場予想に若干の未達となったのを嫌気する向きもあるが、欧州市場への本格浸透はこれからとの見方もできる。全般的には、神経系の疾病における同社のフランチャイズの強さが改めて確認された決算内容となった。
	ギリアド・サイエンシズ	売上: 60.4 (予想: 60.4) EPS: 1.84 (予想: 1.93)	売上は事前予想と一致、利益は予想を下回る結果となった。C型肝炎治療薬「ソバルデ」の売上は若干の予想未達となったものの、新しいC型肝炎治療薬「ハボニー」の発売を2014年10月に控えての買い控えと思われる。
	セルジーン	売上: 19.8 (予想: 19.6) EPS: 0.97 (予想: 0.95)	別掲

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

・上記は2014年11月21日現在でファンドに組み入れられている次世代米国代表企業について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通し・分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)

追加型投信/海外/株式

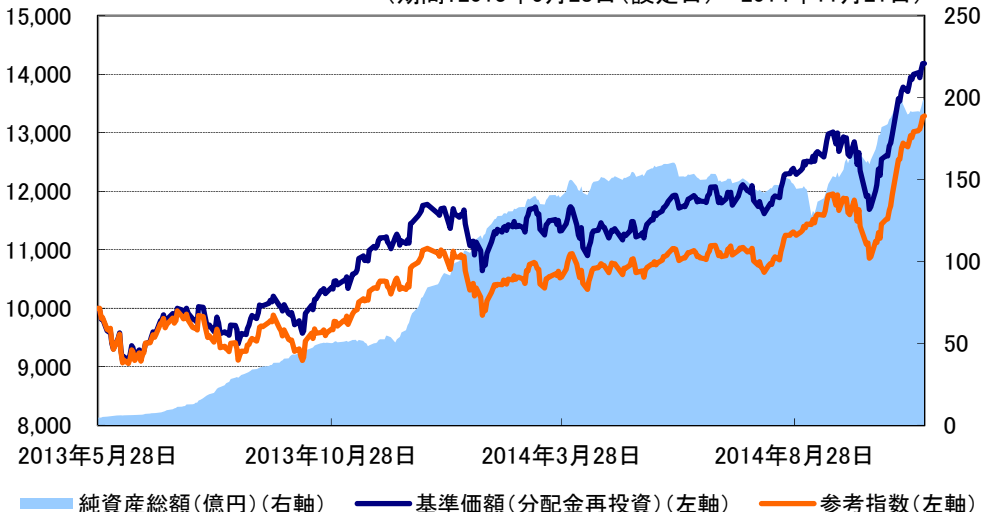
ファンドの特色

- 1 米国の株式が実質的な主要投資対象です。
- 2 主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行います。
- 3 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 4 年4回の決算時(3・6・9・12月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。



基準価額(分配金再投資)の推移

(期間:2013年5月28日(設定日)~2014年11月21日)



参考指数はダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換算ベース)です。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY(ニューヨーク)ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。

■基準価額(分配金再投資)は設定日、参考指数は設定日翌営業日を10,000として指数化しています。■基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。■基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。■上記は過去の実績であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

投資リスク

主な投資リスクとして、組入株式の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

- 価格変動リスク** 企業業績や市場・経済の状況等を反映して組入株式の価格が下落することがあります。また、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を大きく受けます。
- 信用リスク** 組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、組入株式の価格が下落することがあります。
- 流動性リスク** 市場に十分な需要や供給がない場合等に、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。投資信託は預貯金と異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。／投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡りする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的として三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、勧誘を目的に作成したものではありません。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また為替・税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

お客さまにご負担いただく費用

購入時	購入時手数料	購入価額× 3.24% (税抜3%)を上限として販売会社が定める利率
換金時	信託財産留保額	ありません。
保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	純資産総額× 年1.566% (税抜年1.45%)
	その他の費用・手数料	売買委託手数料等、監査費用、外国での資産の保管等に要する費用等を信託財産からご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

・お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
 販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

販売会社情報一覧表

ファンド名称: 次世代米国代表株ファンド

商号	登録番号等	加入協会
株式会社 あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 青森銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第1号	日本証券業協会
株式会社 阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第1号	日本証券業協会
株式会社 池田泉州銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第8号	日本証券業協会
株式会社 四国銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第3号	日本証券業協会
株式会社 但馬銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第14号	日本証券業協会
株式会社 中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	日本証券業協会
株式会社 中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 東京都民銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第37号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第3号	日本証券業協会
株式会社 南都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第15号	日本証券業協会
株式会社 八十二銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第49号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
株式会社 宮崎銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第5号	日本証券業協会
株式会社 山形銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第12号	日本証券業協会
株式会社 山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号	日本証券業協会
株式会社 琉球銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長(登金)第2号	日本証券業協会